

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

例会会報

第2350回

平成19年2月13日(火) 晴(本年度 第30回)

会長報告

丸山隆志

2・3月は、具体的な奉仕活動計画があまり御座いませんので、特に例会の充実に力を入れたいと思います。幸いにも、プログラム委員会のご尽力で素晴らしいプログラムが組まれております。是非とも、出席してご聴講し、又、出席率向上に協力をお願いいたします。

2月10日(土)に、新・鶴岡市スポーツ少年団本部(原田薫本部長)の誕生を記念した式典と講演会、祝賀会があり出席いたしました。記念講演は、テレビ朝日アナウンサーで日本体育協会生涯スポーツ推進専門委員会委員の宮嶋泰子さんの「フレイプ レースポーツ少年団」と題してなされました。その中で最近の子供達の「家畜化現象」と言うお話がありました。親が全てすぐ与える事により、我慢が出来ない、創意工夫・協調性・闘争心の欠如等などの現象が多くなっていると言う事でした。スポーツによる青少年の健全育成に地域全体で取り組んで下さいと言っておりました。

本日は、庄内映画村(株)代表取締役 宇生雅明(うじょう・まさあき)さんのゲストスピーチです。宇生さんは、「誰にもわかる日本語で、こんなに美しいことばで、人を感動させる作家を僕は知らない・・・」と藤沢周平さんの小説「蝉しぐれ」を初めて読んだとき、こう感じたそうです。

宇生さんご自身は、もともとは山梨県清里と東京赤坂に事務所を持つIT企業の社長さんです。その宇生さんがなぜ「蝉しぐれ」の映画プロデューサーを務めることになったのでしょうか。又、なぜ庄内映画村(株)を設立したのでしょうか。そんなお話をして頂ければ幸いです。そして、庄内映画村(株)を通じて鶴岡・庄内を全国、全世界に宣伝して頂きたいと思ひます。最後に、庄内映画村(株)の益々の発展をご祈念いたします。

宇生雅明氏のプロフィール

- 1951年(昭和26年)：長野県長野市生まれ
山梨県、長野県にまたがる八ヶ岳山麓・標高1200mに在住。
東京のデザイン事務所にてモロゾフの店舗、POPデザインを担当。
- 1981年(昭和56年)：きり絵作家として独立 雑誌の表紙・グラフィックを担当。
- 1985年(昭和60年)：東京でIT企業「ベーター・ビジュアル・システムズ」を設立
NTTや中央競馬会の管理業務を行い現在に至る
- 2001年(平成13年)：「蝉しぐれ」のシナリオを持ち初めて庄内に入る
- 2002年(平成14年)：「蝉しぐれ」映画化決定
- 2003年(平成15年)：映画「蝉しぐれ」プロデュースを引き受ける
- 2005年(平成17年)：松ヶ岡に「蝉しぐれ」資料館設立
松ヶ岡を拠点として映画「蝉しぐれ」の宣伝担当を引き受ける
侍コンサートをはじめ幾つかのイベントを催す
- 2006年(平成18年)：7月7日庄内映画村(株)を立ち上げる
10月「ジャンゴ」庄内プロデュース担当
- 2007年(平成19年)：3月～「ICHU」・「おくりびと」・「山桜」庄内プロデュース担当

庄内と映画と地域おこし

ゲストスピーチ 庄内映画村(株)代表取締役 宇生雅明氏



宇生でございます。本日はお招き頂きありがとうございます。

2001年10月頃、「蝉しぐれ」の監督をされた黒土三男さんが見せたいものがあると訪ねてこれ、

蝉しぐれを撮るためのお金をインターネットで集めようと思って、ホームページを4月に立ち上げたが、まだ200件しかアクセスが無い。これはどうしたことだと言ってきました。そのホームページはお金を振り込めという内容のものでしたので、これではダメだと言われました。じゃあ作ってくれ、但しお金は無いと言われて作りましたが、その後奇跡的にいろんな方とお会いし、奇跡的に映画が出来て、映画を誘致して、会社まで出来ちゃったという話を今日させていただきます。

私が清里観光振興会理事をしていた時、月山水の西川町に2001年11月3日行くことになりました。そこに月山水を起こした松田義幸という教授もいらっしゃるっていて、加藤紘一先生、富塚市長、酒井忠久さんを紹介してもらいました。

私が会えたのは酒井館長だけでしたが、話の中で黒土さんが藤沢周平さんから映画にしてもいいよといわれていた白いシナリオ「蟬しぐれ」を一冊差し上げました。何とそれから四ヶ月で映画を作ることが決まってしまいました。

酒井館長の奥様が公益大の大島副学長とお知り合いで、大島副学長のご主人がご存じの通り電通の専務さんでした。作れる時というのはおもしろいもので、博報堂が「たそがれ清衛兵」を撮り始めていた頃でした。藤沢ファンでもある大島専務が、何で博報堂がやって、うちが出来ないんだといっていました。実際映画の撮影が始まるのは一年半後になるわけですが人の縁で蟬しぐれの話が進みました。

私はHPを作っただけで、ここまでやればもういいと思っていました。ところが、映画製作では予算がだんだん膨らんで1億円の赤字が出る見通しになり、プロデューサーが降りてしまいました。結局私にやれということで引き受けました。皆さん本当によく協力してくれました。宿泊費はある所では無料、ある所では開業以来の安さでして頂きました。その結果終わってみたら1億円の赤字が無くなっていました。10月公開になって、興行成績は約14億円、「たそがれ清衛兵」を上回りました。「武士の一分」はもっとすごくて30億円を越えたそうです。さすがにキムタクはすごいなあと思いました。

2005年8月、あの「蟬しぐれ」のオープンセットを何とか残せないかと思っていた時、「蟬しぐれ」を撮った制作会社があと二本時代劇を撮ると言う話を聞き付け東京に飛んでいきました。中沢さんという人に何とか庄内で撮れませんか交渉すると、「撮りたいけど予算が無いので広島で撮る。そこには建物が残っているのでも千万安く上がる」ということでした。ではそのン千万をこちらが作ったら来てくれますかと聞いたところ、喜んで行くよと言ってくれました。実は中沢さんも庄内ファンだったのです。

庄内に戻ってから、結局、殿様何とかしてくださいと酒井館長を訪ねましたら、何とかなるんじゃないのとおっしゃって、話し合い、その結果法人を作ることになりました。50万の出資を100人にお願いすれば5千万になるね、ということで6月に40名ほどの人にお願いしたところ35名から協力を頂きました。スタッフも入り始めていて、7月7日7

時に会社を立ち上げました。

どれだけ総制作費をリーズナブルに出来るか、これが今後も庄内に映画を撮りに来てもらえるための絶対条件です。特に宿泊費が安く上がれば競争力が得られます。コスト面と、監督、俳優、撮影を見に来る観光客に喜んでもらえる環境を整えることが非常に大事になってくる。そうすれば地元の地域お越しにもなると思っています。

映画村では筆頭株主をあと50人募集中です。ご協力頂ければ幸いです。本日は有難うございました。

委員会報告

出席委員会

委員長 迎田 健

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	72.73%
出席数	29人	修正出席数	34人
出席率	67.44%	確定出席率	79.07%

●メイクアップされた方

藤川 享胤君 青柳 孝治君 秦 幸助君
樋渡美智子君 本間喜美子君 石田 雄君
加藤 功君 丸山 隆志君 嶺岸 禮三君
真島 吉也君 越智 茂昭君 斎藤 昭君
佐々木喆彦君 佐藤 孝子君 佐藤 友行君
富樫 松夫君 富田喜美子君 塚原 初男君

●ビジター

木村有為君（鶴岡西 RC）

●ゲスト

宇生雅明氏（庄内映画村(株)）

○年間皆出席

23年 佐々木喆彦君 22年 塚原初男君

1月 100%以上出席者

300%以上 藤川享胤君 225% 嶺岸禮三君

200% 富田喜美子君 175% 佐藤孝子君

150% 秦 幸助君 樋渡美智子君 本間喜美子君

加藤 功君 丸山隆志君 真島吉也君

塚原初男君

125% 阿部純次君 青柳孝治君 本間昭吉君

越智茂昭君 石田 雄君 佐藤友行君

斎藤 昭君 佐々木喆彦君

100% 富樫松夫君 阿蘇司朗君 介 君

足達篤司君 白幡憲一郎君 御橋義諦君

松浦 覚君 桜井 隆君



佐藤孝子君 宇生さん、映画村頑張ってください。

丸山隆志君 宇生さん、スピーチありがとうございました。